

- 241–245pp.
- 稲垣政志・稲垣信吾, 2007. コブナシコブスジコガネ *Trox nohirai* Nakane の生態について. 鯉角通信, (15): 7–10.
- 亀澤 洋, 2011. 東京都初記録のムネミゾチビサビキコリ [ママ] の採集例. 寄せ蛾記, (144): 72.
- 木元達之助, 2004. クチキムシ亜科甲虫の分布記録. 甲虫ニュース, (145): 7–14.
- 小峰幸夫・林美木子・木川りか・原田正彦・三浦定俊・川野邊渉・石崎武志, 2011. 日光の歴史的建造物で確認されたシバンムシ類の種類と生態について. 保存科学, (50): 133–140.
- Maruyama, M. and H. Sugaya, 2004. A new myrmecophilous species of *Batraxis* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae), associated with *Lasius* (*Chthonolasius*) sp. (Hymenoptera, Formicidae, Formicinae) from Hokkaido, Japan. Elytra, 32(2): 321–325.
- 三宅 武, 2012. エヒメアリヅカムシ九州の記録. 月刊むし, (502): 11.
- 茂木幹義, 1999. ファイトテルマター 生物多様性を支える小さなすみ場所. 213 pp. 海游舎.
- 野村周平, 2008. 東京都檜原村三頭山「檜原都民の森」で FIT により採集したアリヅカムシ, イトヒゲニセマキムシおよびクロアリヅカエンムシ. 甲虫ニュース, (164): 16–21.
- 野村周平・丸山宗利, 2011. 日本初記録の好蟻性甲虫コブヒゲアリヅカムシ (和名新称) (ハネカクシ科アリヅカムシ亜科). さやばねニューシリーズ, (4): 28–31.
- Nomura, S. and P. Hlaváč, 2003. *Himepion cyathicorne* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae), a new genus and species of the Somatipionina from Shikoku, Japan. Elytra, 31(1): 159–164.
- 小川 羊, 2003. 奥多摩けもの道. <http://oktmkmgr.sakura.ne.jp/index.html> (2013年6月24日閲覧)
- 大原昌宏・上田明良・尾崎研一・佐山勝彦, 2011. トランクウィンドウトラップで採集されたエンムシ類. さやばねニューシリーズ, (3): 8–12.
- 大平仁夫・有本久之, 2001. 福井県産コメツキムシ類の分布記録 (15). 福井虫報, (29): 31–34.
- 鈴木 互, 2000. ムネアカツヤケシコメツキ 2 種の記録. 月刊むし, (358): 14–15.
- 鈴木 互, 2001. プナの洞から採集されたクリイロツヤハダコメツキ. 月刊むし, (365): 50.
- 上田衛門, 2011. 東京都目黒区におけるクロホシクチキムシの観察例. 月刊むし, (486): 46–47.
- Yoshitomi, H., 1997. A revision of the Japanese species of the genera *Elodes* and *Sacodes* (Coleoptera, Scirtidae). Elytra, 25(2): 349–417.
- 吉富博之・林 尚希, 2011. 日本産ジョウカイモドキ科とその近縁科のリスト. さやばねニューシリーズ, (2): 18–24.

(2013年8月15日受領, 2013年8月31日受理)

【短報】伊豆大島からアカアリヅカエンムシを記録

アカアリヅカエンムシ *Haeterius gratus* Lewis, 1884 は, 長野県産をもとに記載された好蟻性エンムシで, 北海道, 本州, 九州から見つかったているが, 記録は概して散発的である (Ôhara, 1994).

筆者らは, 伊豆大島において本種の生息を確認しているため報告する.

6exs., 東京都大島町泉津原野 [N34° 44' 53" E139° 27' 01"], 27. V. 2013; 2exs., 東京都大島町元町二冨坪山 [N34° 44' 17" E139° 22' 51"], 29. V. 2013, いずれも亀澤採集.

伊豆大島および伊豆諸島初記録にあたる. 本種は本土では主に山地で確認されているが (Lewis, 1884; 黒沢, 1976; 田野口・小塩, 1979; 平野, 1984; 丸山・喜田, 2001), 伊豆大島においては標高 550 m の地点および標高 50 m の海岸部付近の地点からも得られた. ただし, 本土でも低標高地で確認されていないわけではなく, 長谷川・久保田 (1944) は横浜市から, 森 (2009) は神戸市北区から, 高倉 (1989) は北九州市南部の福智山麓部から, 沢田 (1986) は東京都稲城市から, 河路 (2013) も最近, 愛知県春日井市から記録しており, 地図で確認するといずれの地点も標高 300 m 程度からそれ以下, 場所によっては標高 30 m にも満たない地点もある.

1 個体はトビイロケアリ *Lasius japonica* Santschi, 1941 の巣内から得られたが, ほかはすべてクロヤマアリ *Formica japonica* Motschulsky, 1866 の巣内から採集された. これまで本種の寄主アリとして報告されているのはヤマアリ属であり (Lewis, 1914; Ôhara, 1994; 丸山ら, 2013 など), 本種が見つかったトビイロケアリの巣の近くにはクロヤマアリの巣もあったため, トビイロケアリの巣内には偶発的なものと考えられる.

末筆ながら, 本種の既記録に関してご教示くださった大原昌宏博士 (北海道大学総合博物館) に深謝する. なお, 伊豆大島での調査は, 科研費 (24510333; 研究代

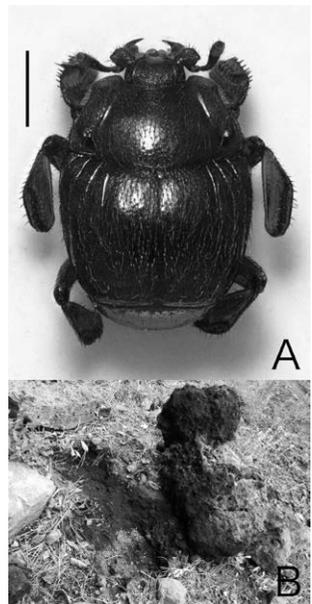


図1. A: アカアリヅカエンムシ (伊豆大島産), スケールは 0.5 mm; B: 確認環境 (草地で石をひっくり返し, クロヤマアリの巣内の一部を暴露させたところ).

表者：小島弘昭)の助成を受けて行われた。

引用文献

- 長谷川 仁・久保田政雄, 1944. 一, 二の日本産好蠟性及び好白蠟性昆蟲に就いて. 關西昆蟲學會會報, 14(1): 84-86.
- 平野幸彦, 1984. アカアリヅカエンマムシの宿主蟻と生態断片. 甲虫ニュース, (63): 4.
- 河路掛吾, 2013. アカアリヅカエンマムシを愛知県春日井市で採集. 佳香蝶, 65 (253): 11.
- 黒沢良彦, 1976. アカアリヅカエンマムシの採集記録. 甲虫ニュース, (33): 11.
- Lewis, G., 1884. On some Histeridae new to Japanese fauna, and notes of others. The annals and magazine of natural history, 5(13): 131-140.
- Lewis, G., 1914. On new species of Histeridae and notices of others. The annals and magazine of natural history, 8(14): 283-289.
- 丸山宗利・喜田和孝, 2001. アカアリヅカエンマムシの採集例. 月刊むし, (370): 25.
- 丸山宗利・小松 貴・工藤誠也・島田 拓・木野村恭一, 2013. アリの巣の生きもの図鑑. 208 pp., 東海大学出版会.
- 森 正人, 2009. 兵庫県における好蠟性エンマムシ. 月刊むし, (461): 36-37.
- Ôhara, M., 1994. A revision of the superfamily Histeroidea of Japan (Coleoptera). Insecta matsumurana, new series, (51): 1-283.
- 沢田和宏, 1986. アカアリヅカエンマムシ東京都の採集例. 月刊むし, (190) :15.
- 高倉康男, 1989. 福岡県の甲虫相. 526pp., 葦書房.
- 田野口康彦・小塩政行, 1979. アリヅカエンマムシの宿主蟻の記録. 甲虫ニュース, (47):8.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)
(野村周平 国立科学博物館動物研究部)

【短報】コセスジゲンゴロウの滋賀県における2つ目の産地

コセスジゲンゴロウ *Copelatus parallelus* Zimmermann, 1920 は環境省レッドリストで絶滅危機増大種に指定される水生甲虫である(環境省, 2012; 初宿, 2011). 本種の記録があるのは大阪府, 滋賀県, 京都府の3府県であり, 滋賀県においては2004年に高島市の内湖で記録されている(大倉, 1957; 西城・初宿, 2004; 村上, 2012). 筆者は既知産地から12 km程離れた津市北部において本種を採集したので報告する. 採集地は湖岸近くの湿地帯であり, ヤナギ類やヨシなどの植物が多く生育していた. ここに散在していた複数の水溜りで本種を採集した. 本種が採集された水溜りはいずれも水深10 cm未満, 底質は主に泥と植物枯死体であった. 水溜りとその周辺には草丈1 mを越



図1. カササゲ群落の生息地.



図2. ウキヤガラ群落の生息地.

すウキヤガラやカササゲ, ミゾソバなどが繁茂していた(図1-2).

8exs., 滋賀県津市南小松, 2. V. 2013, 村上大介採集; 5exs., 同上, 11. V. 2013, 村上大介採集; 4exs., 同上, 23. VI. 2013, 村上大介採集.

本稿を書くにあたり, 株式会社ラーゴの牛島釈広氏に御助言を頂いた. 文末であるが, 厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 大倉正文, 1957. *Copelatus parallelus* ZIMMERMANN コセスジゲンゴロウについて. 昆虫学評論, 8 (1) : 22.
- 環境省, 2012. 環境省第4次レッドリスト(昆虫類). http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=21555&hou_id=15619 (2013年7月確認).
- 西城 洋・初宿成彦, 2004. コセスジゲンゴロウを約60年ぶりに再発見. ねじればね, (111) : 7-8.
- 初宿成彦, 2011. コセスジゲンゴロウ. 滋賀県で大切にすべき野生生物, p.391. 滋賀県自然環境保全課, 大津.
- 村上大介, 2012. 京都府におけるコセスジゲンゴロウの採集記録. さやばねニューシリーズ, (7) : 32.

(村上大介 610-0351 京田辺市大住ヶ丘 1-4-7)